



# 「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的な指針(仮称)」の策定 およびその実施に向けた検討論点案への意見

社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育協議会 会長 奥村尚三  
全国保育協議会 副会長 村松幹子  
(全国保育士会 会長)



## 成り立ち

- ◆ 全国保育協議会は、**全国の公立・私立の認可保育所・認定こども園等、約2万1,500施設を会員**とし、保育・子ども家庭福祉の質の向上に取り組んでいる。
- ◆ 1952（昭和27）年設立。70年以上にわたり、社会や家族の変容のなかで子どもの育ちと子育てを支えてきた。
- ◆ 内部組織として、18万8千人余りの保育士・保育教諭等が加入する全国保育士会が組織されている。

## 全国保育協議会の特徴

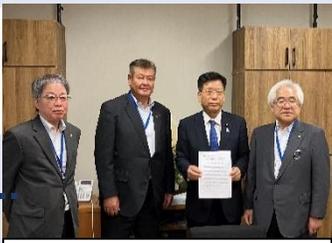
- ◆ 「全保協 将来ビジョン」「公立保育所・公立認定こども園等アクションプラン（第五次）」を活動の指針とし、**「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現をめざして」**取り組みを進めている。
- ◆ 全国的ネットワークにより幅広い視野をもって各種事業に取り組んでいる。

## 全国保育協議会の取り組み

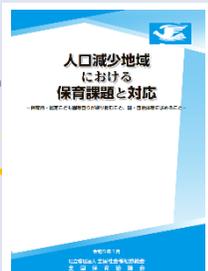
全保協 将来ビジョン

5つの目標

<b>カテゴリⅠ</b> 子どもの育ちを保障する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保育制度改革への対応</li> <li>● 国への要望活動（保育三団体協議会として）</li> </ul>
<b>カテゴリⅡ</b> 子育て家庭を支える	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口減少地域の保育課題の検討</li> <li>● 保育士の確保・資質向上に向けた検討</li> </ul>
<b>カテゴリⅢ</b> 多様な連携と協働をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「全保協将来ビジョン」の全国的な展開</li> <li>● 施設長・リーダーの資質向上</li> </ul>
<b>カテゴリⅣ</b> 子育て文化を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保育実践の普及</li> <li>● 会員や社会に向けた広報活動の強化</li> </ul>
<b>カテゴリⅤ</b> 子育て・子育てを支援する仕組みをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公立保育所・公立認定こども園の在り方の検討</li> </ul>



国に対し、制度や予算について要望活動を実施



人口減少地域における課題を整理

- 研修会の一例
- 教育・保育施設長ステージアップ研修（「基礎編」「専門編」「発展編」）
  - 緊急対応事案等学習会（年2回程度）
  - 認定こども園研修会
  - 公立保育所・公立認定こども園等トップセミナー
  - 保育人材養成会議（年3回）
  - 全国保育研究大会

「保育所長の研修体系」に基づく研修の実施

会員や社会に向け、HPで制度動向や保育実践を発信



<https://www.zenhokyo.gr.jp/>





# 全国保育士会とは

保育士会シンボルマーク

「スカンポ」



それは愛情の花  
可憐でたくましい

私たち保育者は根強く手つな  
ぎをして子どもたちのしあわ  
せを守りましょう。

全国保育士会は、「スカンポ」を  
デザインした会員バッジを作成し  
ています。保育専門職の目印と  
してご活用いただいています。

## 成り立ち

- ◆ 1956（昭和31）年、「子どもたちの真の幸福を守るために保母は手をつなぎ、たちあがろう！」との呼びかけに賛同した人たちによって創設。
- ◆ 現在18万8千人余りを会員とする、わが国最大の保育士・保育教諭等の組織。

## 全国保育士会の特徴

- ◆ 「全国保育士会倫理綱領」の理念のもと、「**子どもの育ちを支え、保護者の子育てを支え、子どもと子育てにやさしい社会をつくる**」ことを目的に事業をすすめている。
- ◆ 専門職としての誇りと責任をもち、**保育の質および自らの専門性の向上**をめざしている。
- ◆ 全国的ネットワークにより、幅広い視野をもって各種事業に取り組んでいる。

## 全国保育士会の取り組み

### 1 子どもが豊かに育つ質の高い保育の実現

- ①「倫理綱領」の理念に基づいた保育の質の向上と実践強化
- ②「保育士・保育教諭の研修体系」に基づく生涯研修の実施
- ③社会の変化に対応した保育内容の実践と発信
- ④食育の推進
- ⑤地域支援事業に向けた取り組み
- ⑥実践研究の推進、支援

保育者が取り組んだ実践研究をまとめた研究紀要を年1回発行

保育の質の向上のための研修会を開催



**研修会の一例**

- 主任保育士・主幹保育教諭特別講座\*
- 全国保育士研修会
- 「保育スーパーバイザー」養成研修会
- 全国保育士会研究大会
- 食育推進研修会

\*主任保育士・主幹保育教諭特別講座とは  
保育所・認定こども園の中核を担う主任保育士・主幹保育教諭の専任配置をめざして、年2回の集中講義やレポートによる学びに加え、ゼミに所属し、学識者の指導のもと実践研究に取り組みます。ゼミでの演習では全国を受講生と意見交換を行い、研究を深めます。

### 2 専門性の発揮できる環境構築

- ① 保育（養護と教育）の専門性の明確化と発信の取り組み
- ② 子どもの育ちの連続性を確保する小学校との連携強化

- ① 保育制度改革等への対応
- ② 保育士・保育教諭の人材確保、育成、定着（保育者に向けた保育の魅力の発信の取り組みを含む）
- ③ ①、②の取り組みを支える全国保育士会の組織強化と、ブロック、都道府県・指定都市保育士会との連携強化
- ④ 会員および保育関係者への情報発信

ホームページやYouTubeで保育の専門性や魅力を発信



### 4 スカンポ募金による保育士等支援

- ① 全国保育士会被災地支援スカンポ募金の実施
- ② 大規模自然災害の発生への備え



# 論点整理の受け止め

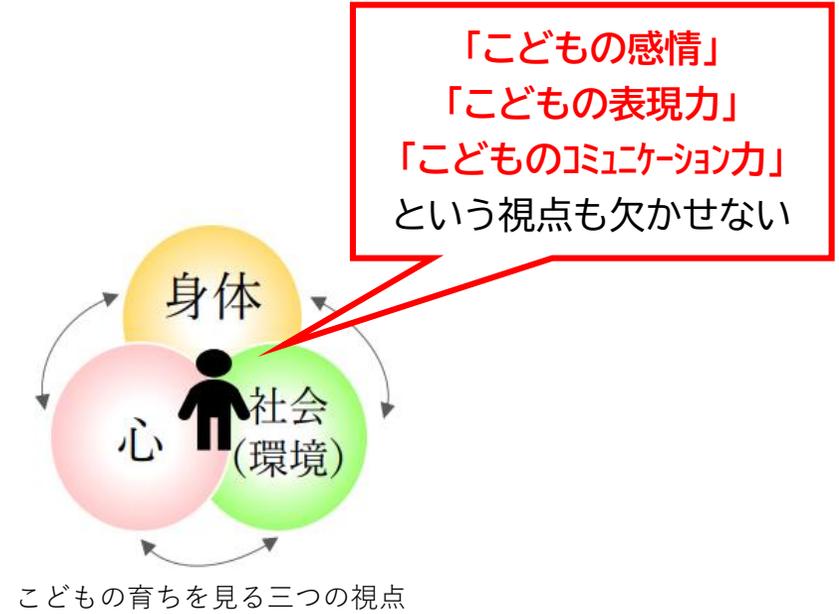
◆ ともすれば、こどもではなく、大人の側に視点が置かれてきたこれまでの子育てにかかる施策であったが、ようやく、こどもがまんやかに置かれ、主人公としての声を受け止めてもらえる環境になったと感じる。

◆ 「育ちの時期を問わずすべての人と共有したい基本的な考え方」として、「『身体』『心』『社会（環境）』のすべての面での育ちを一体として保障」とある。

「心」に含まれているのかもしれないが、こどもの育ちを見る時には、

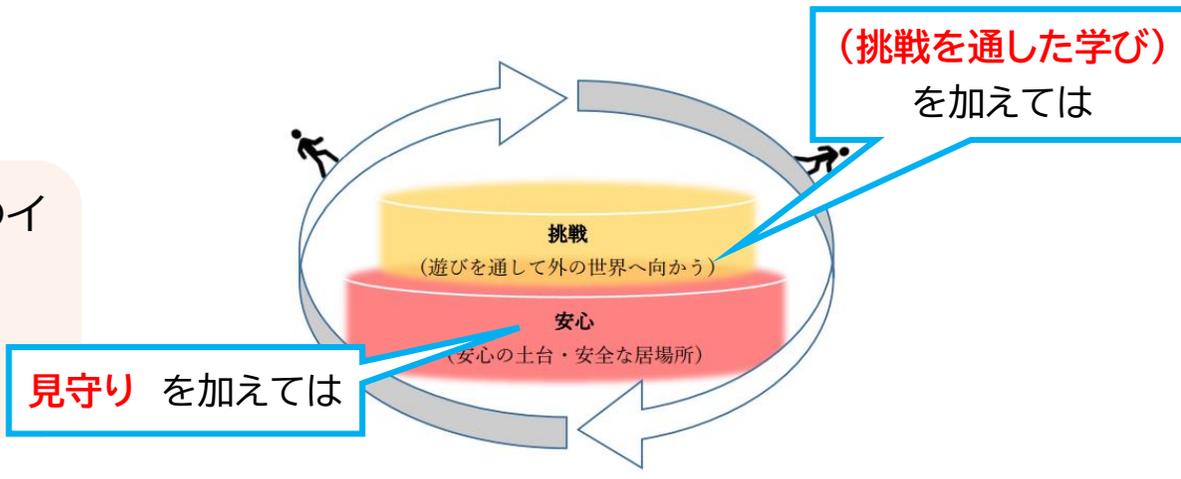
**「こどもの感情」**  
**「こどもの表現力」**  
**「こどものコミュニケーション力」**

という視点も欠かせない。  
それが伝わるように整理してほしい



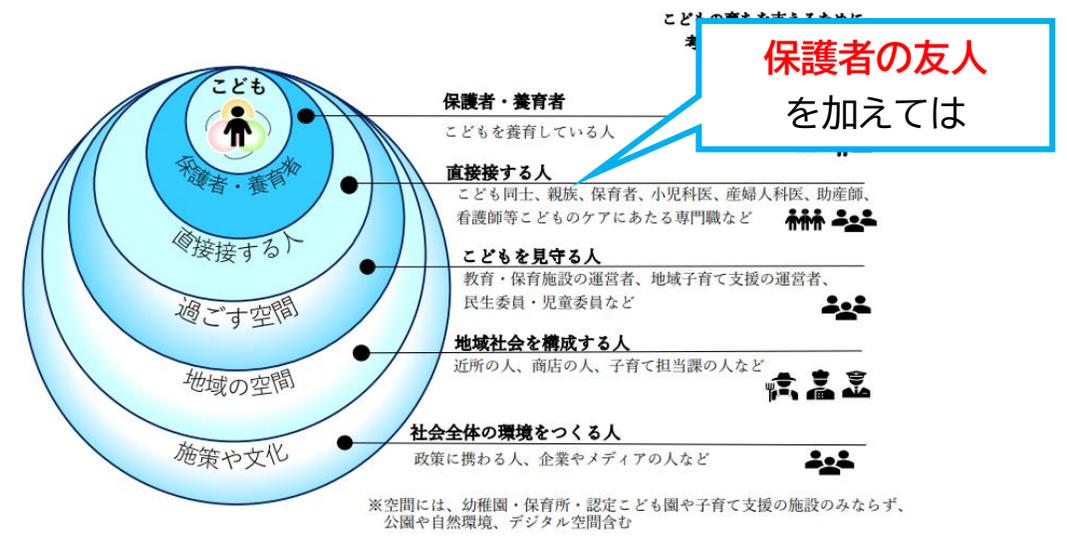
# 論点整理の受け止め

◆ 「発達の鍵となる『安心と挑戦の循環』のイメージ」に、「**挑戦を通した学び**」、安心に「**見守り**」を加えてはどうか。



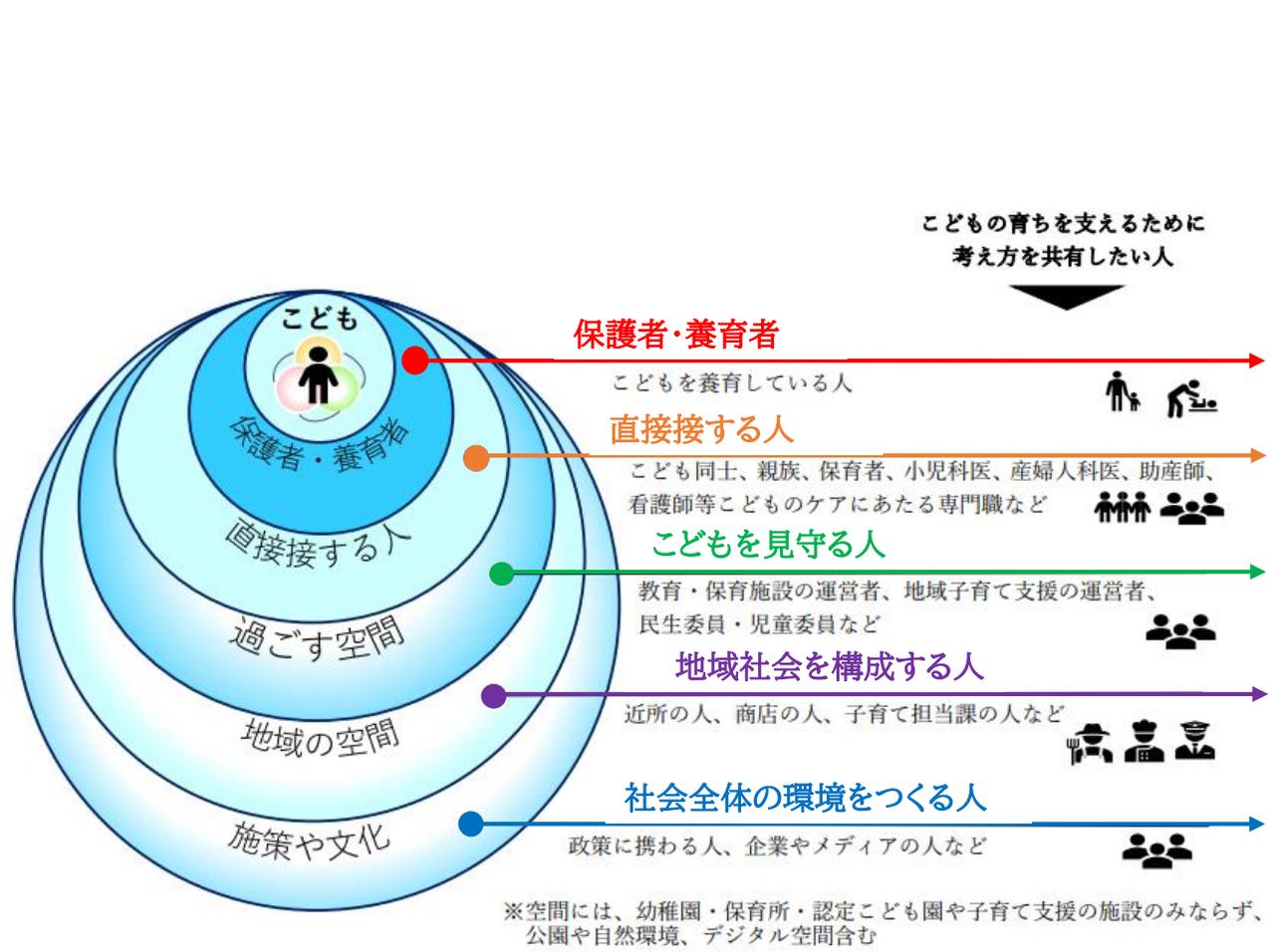
発達の鍵となる「安心と挑戦の循環」のイメージ

◆ 「こどもまんなかチャート」の「直接接する人」に、「**保護者の友人**」を加えてはどうか。



それぞれのこどもから見た「こどもまんなかチャート」の視点のイメージ

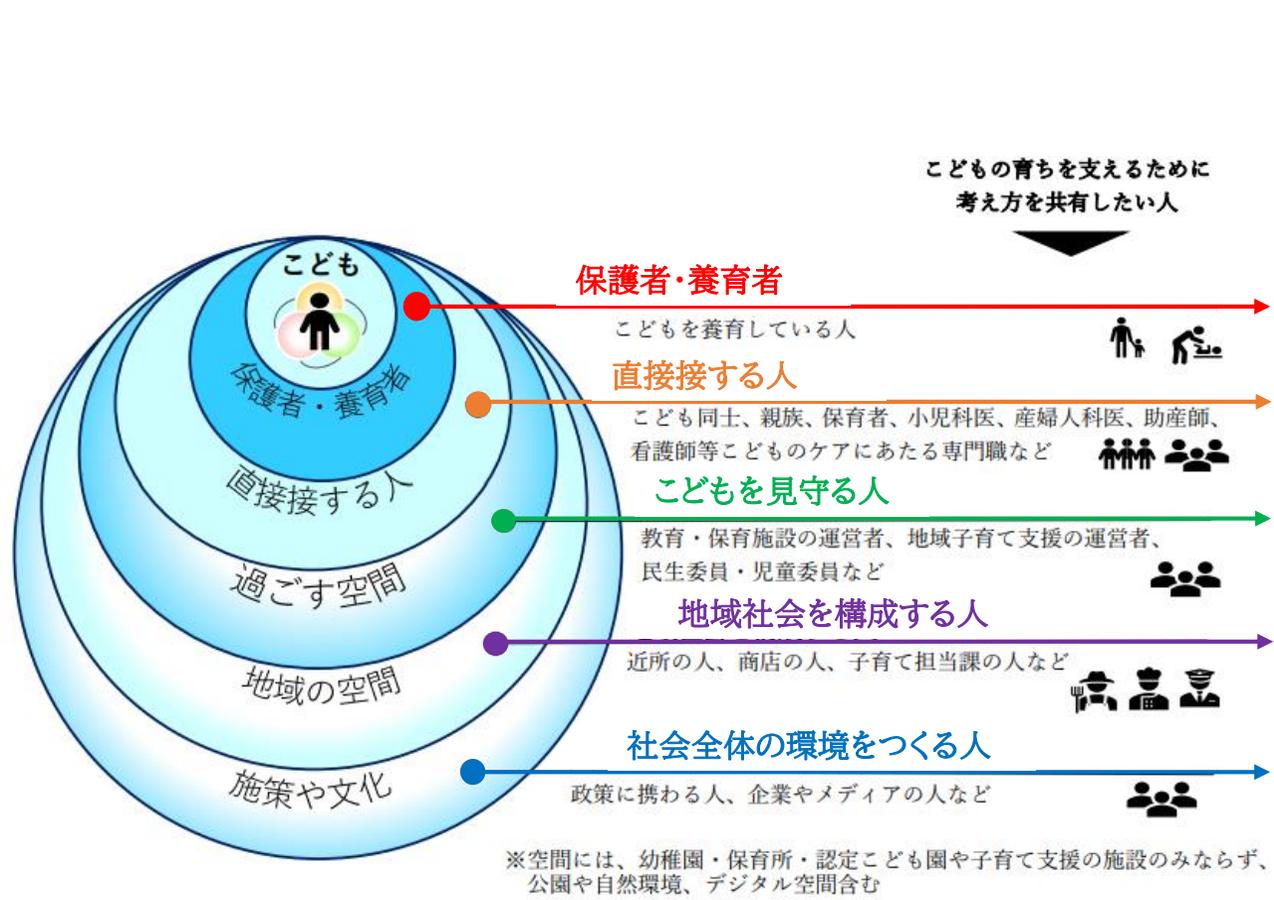
# 育ちの時期ごとに共有したいこと(① 妊娠期)



※空間には、幼稚園・保育所・認定子ども園や子育て支援の施設のみならず、公園や自然環境、デジタル空間含む

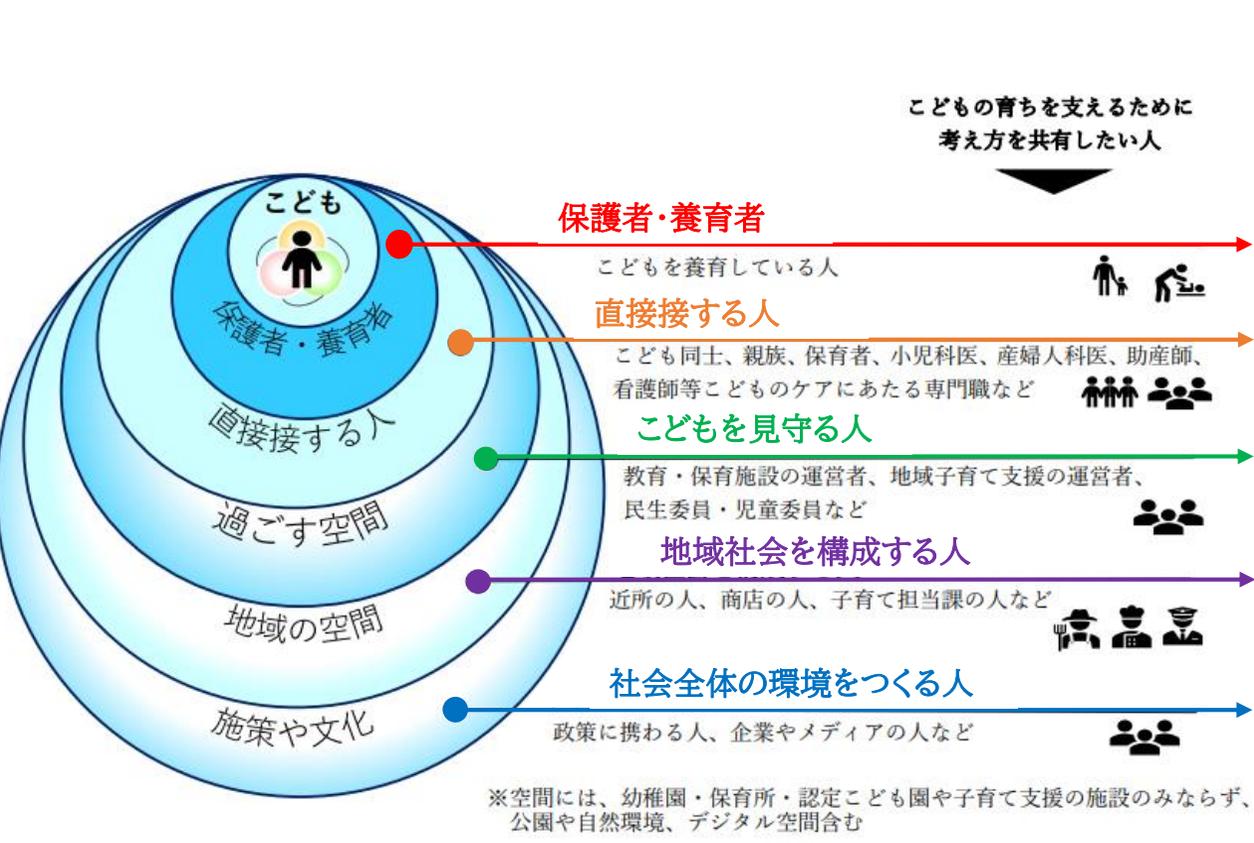
① 妊娠期	
共有したいこと	そのために必要なこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 産み、育てることへの希望や喜び</li> <li>□ 家庭内の状況</li> <li>□ 生まれてくる子の兄弟の理解</li> <li>□ その地方特有の暮らし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 妊婦に向ける尊敬の気持ち、慈しみのまなざし</li> <li>➢ 子育てパートナーまたは支援者を含めた出産計画の助言</li> <li>➢ 家族が増える事、生まれてくることを話す</li> <li>➢ 身近な相談相手や情報源をつくること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>□ こどもの命を守り、育てることへの共感</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ それぞれの専門性に基づく知見、経験</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 支援の場や機会を提供できることの喜び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 妊娠期からのこどもの育ちを認識すること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 地域で見守る意識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 妊婦の生活を理解した環境や関わりを考えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 産み育ててくれることへの感謝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 現実的な制度的・経済的な支援の仕組みの充実</li> </ul>

# 育ちの時期ごとに共有したいこと(② 乳児期)



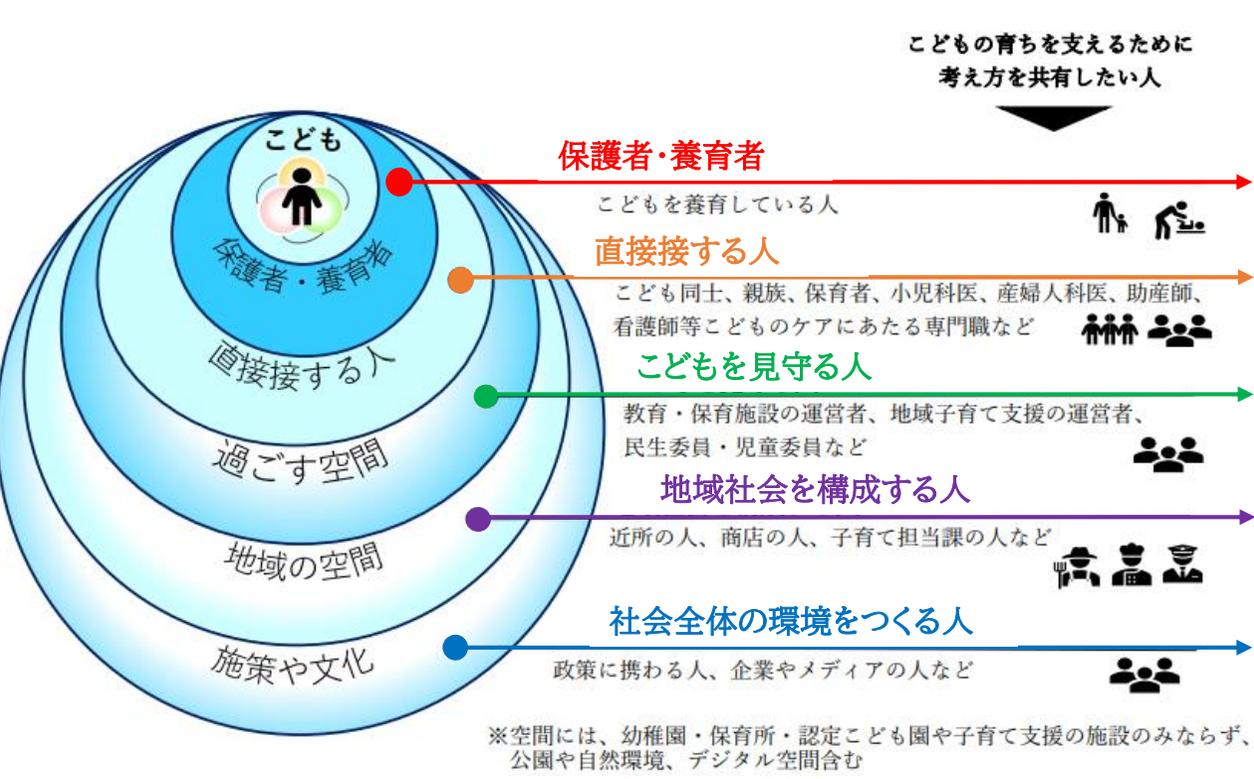
② 乳児期	
共有したいこと	そのために必要なこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ こどもにとっての安心感</li> <li>❑ こどもとの生活を喜べる</li> <li>❑ 支援メニュー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 子どもの思いや欲求を満たすことが基本的なことであるとの理解</li> <li>➢ 子育て支援者の育成</li> <li>➢ ニーズに沿った内容、提供場所、時間帯等の発信</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ この時期の愛着形成が生涯にわたる人格形成の基礎であること</li> <li>❑ 支援してほしいメニュー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ それぞれの専門性に基づく対応</li> <li>➢ スペースと人材確保</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ こどもの育ちや保護者の子育てを支援しているという認識</li> <li>❑ 支援してほしいメニュー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 身近に支えているという意識を持つためにそれぞれの立場でできることを発信する</li> <li>➢ スペースと人材確保</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ 育っていくこどもの存在を喜ぶこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域の住民が孤立しないこと、共感の気持ちを持つこと</li> <li>➢ 子育てイベントの開催など参加型の交流</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ 保護者の子育てに報いようという気持ち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 保護者が子育てを最優先にできる労働環境等の構築</li> </ul>

# 育ちの時期ごとに共有したいこと(③ 概ね1～3歳)



③ 概ね1～3歳	
共有したいこと	そのために必要なこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ こどものやりたいという思い</li> <li>❑ 保護者が子育て仲間をつくる情報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ こどもの心理を理解するための場・知識</li> <li>➢ 保護者が話し合えるきっかけとなる場所と時間</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ 意思やペースを受け止めたことによるこどもの喜び</li> <li>❑ 保護者が子育て仲間をつくる情報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ こどもの心身の育ちの道筋や関わり方の共有・理解</li> <li>➢ 保護者が話し合えるきっかけとなる場所と時間</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ こどもの最善の利益を第一に考えること</li> <li>❑ こどもの成長の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ こどもの最善の利益を軸とした支援の仕組や内容の提供</li> <li>➢ 視覚的にこどもの成長を見せ、かつ質問に答えられる人材</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ こどもが見せる行動はこどもの声なのだという認識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 保護者への寛容なまなざし</li> <li>➢ 保護者の生活領域に配慮した企画、情報</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ こどもと保護者をまん中に据えようという意識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 子育てを苦しいと思わせないような社会の仕組み</li> </ul>

# 育ちの時期ごとに共有したいこと(④ 概ね3歳～幼児期の終わり)



④ 概ね3歳～幼児期の終わり	
共有したいこと	そのために必要なこと
<input type="checkbox"/> 経験や学びを力に育つこどもの生き生きとした姿	▶ こどもの育ちを大切に見守ることができる生活のありよう
<input type="checkbox"/> 多面的に自ら育っていきこうとするこどもの意欲	▶ 経験することができる環境や機会を保障すること
<input type="checkbox"/> こどもの育ちや保護者の子育てを支える立場であることの喜び	▶ こどもにとって、保護者にとってと常に考えること
<input type="checkbox"/> 自分たちがこどもや保護者に喜びをいただいているという気持ち	▶ 温かなまなざしで声をかけることのできるひらかれた社会
<input type="checkbox"/> こどもの育ち、保護者の子育てを支援していくことはこれからも続くという認識	▶ こどもをまんなかにすれば、保護者の就労はどうあるべきか、働き方を社会全体で考えること

## 心身・社会的状況にかかわらずひとしく保障する方策

### こどもと日常的に関わる機会がない人も含むすべての人へ真に届く方策

#### に向けて、特に重要と考えること

- ◆ こどもは次代の社会を担う存在であることを共有すること。そのためにはこどもが自己肯定感の中で自己実現できるように育ちを応援していくことが必要だと考える。すべての人が自分が今、こどもだったらどのような社会で生きていきたいか、どのようなまなざしを向けてほしいかとイメージし、それを少しでも実現できるように持てる力を提供することが必要だと考える。
- ◆ 出産から就学までの子どもの成長を知る、街で子育て中の家庭を見かけた時に支援する方法を知る機会を小学校で作ってほしい。
- ◆ 生命の大事さを学ぶ機会。小中高生が、赤ちゃんを抱く、接する体験の場（未熟で、人の手を借りないと成長していけないことを理解してもらえないのではないか）。
- ◆ 子育てにあたって、子どもを育てる側と社会の側とのお互いが配慮できるようなマナーブックのようなものをつくり、社会に浸透させること。

「日常的にこどもの声を聴く立場」、「保護者・養育者の認識によく触れる立場」、「保育者の状況をよく知る立場」、「全国の地域社会の状況をよく知る立場」、「社会全体の環境に大きく関わる立場」などから、部会の議論に付け加えるべきこと

- ◆ 日本国憲法、児童憲章、子どもの権利条約、こども基本法、こども大綱、保育所保育指針等々、子どもをめぐる施策を裏付けるものがたくさんある。それぞれ必要であり、軸となるべきものなのであるが、これらがどのような関係性にあるのか、わかりやすく示すことも国民の理解を得ることにつながると思う。
- ◆ 架け橋期プログラムが実施されているが、園を卒園し、小学校に入学するにあたって、学校それぞれの生活習慣やルールがある。小学校の先生たちに、乳幼児期のこどもの育ちを理解してもらい、小学校以降のスムーズな育ちを保障してほしい。